

復幸だより

2019

5月

第21号

宮城県仙台保健福祉事務所(塩釜保健所)

- ◆ 事務所長、副所長、技術副所長挨拶
- ◆ 塩釜地域災害医療連絡会議(訓練)開催

〔御挨拶〕

新任幹部職員紹介

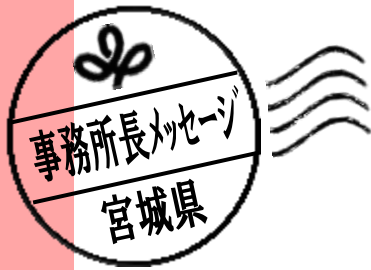


今年も北海道まで桜の開花が進み、日本全国を桜前線が駆け抜けました。

写真は、松島町の高台に位置する西行戻しの松公園からの眺めです。4月中旬、前日の雨が嘘のように晴れ渡った空と澄み渡った海の紺碧が、視界を彩る桜をより際立たせています。一面の桜が新時代「令和」の到来を言祝いでいるようです。

ところで、布や繊維を淡い桜色に染める桜染めでは、桜の花ではなく、枝や葉を使って色を抽出するそうです。一見桜色とはほど遠く見える枝や葉が、より濃い桜色の源を蓄えているからこそ、春のたった数日間だけ咲く花たちが、これほどにも人々の目を楽しませることができるのかもしれない。

日に日に暖かくなり、初夏の訪れすら感じさせる今日この頃。新しい職員を迎え、仙台保健福祉事務所も心機一転、夏に向かって復興への支援を加速させてまいりたいと思います。



復興に向けた計画の総仕上げの年

4つの重点項目に取り組みます

この4月から仙台保健福祉事務所に参りました鈴木です。

東日本大震災から8年が経過しました。
平成31年度(令和元年度)は、震災復興計画の9年目、発展期の2年目であり、復興に向けた計画の総仕上げの年となっています。

災害公営住宅も全戸完成するなど、生活インフラの整備は概ね順調に進んでいます。一方、災害公営住宅への転居などにより被災者の生活環境や心身の状況に変化なども生じており、そうした課題に対するソフト面での支援はまだまだ必要な状況になっています。

平成31年度(令和元年度)、保健・福祉・医療の分野での東日本大震災への対応としては、次の4つの項目について重点的に取り組んでいくこととしています。

- ① 「被災者生活環境の確保」
仮設住宅からの転居支援、高齢者・障害者等の住宅確保支援、災害公営住宅での地域コミュニティや支え合い体制づくりの支援等
- ② 「安心できる地域医療の確保」
転居等の環境変化のあった人の健康調査、健康相談、健康診査等の支援、透析医療部門の拡充・強化、医療従事者の確保対策等
- ③ 「未来を担う子どもたちへの支援」
被災した子どもの心のケアや健康・生活面等の支援、更に、結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援などの少子化対策等
- ④ 「だれもが住みよい地域社会の構築」
深刻化・複雑化している被災者の心の問題への心のケアセンターを中心とした取り組みの推進等

今年度も、震災復興の総仕上げに向け、職員一同、市町村や関係機関・団体の皆さんと連携しながら各種施策に取り組んでまいります。そうした中、この「復幸だより」が地域復興支援の一助となればと思っております。引き続きよろしく願いいたします。



鈴木宏昭

仙台市出身。昭和59年宮城県庁入庁。海外ビジネス支援室長、情報政策課長、用地課長、東部地方復興事務所登米地域事務所副所長などを経て平成31年4月より現職。

新任幹部職員挨拶

副所長兼地域保健福祉部長

4月から仙台保健福祉事務所(塩釜保健所)に参りました伊澤です。

東日本大震災から8年が経過しており、平成 30 年度で震災復興住宅は全て整備されたとはいうものの、私自身、保健福祉事務所(保健所)の勤務は12年ぶりであり、実際に勤務してみて大震災の大きな爪痕が人々の心の中に依然として残っており、生傷のように何かのきっかけで、傷口が痛み出すような方々が大勢いることを改めて思い知らされました。

事務所として重要なことは、これらの方に関係者とともに適切なケアができるようにすること、そして、平常時はもちろん、大規模災害発生時の非常時においても、地域の方々に適切な保健・福祉のサービスが提供できるような体制を整えておき、実際に提供できるようにすることであると考えています。

職場における職員の状況を見ると、職員の年齢構成が若返ってきて、業務として震災を経験したことがない職員の比率がかなり高くなっています。このことも踏まえながら、関係機関の協力も得ながら、地域の方々の安全・安心を確保できるように微力ながら努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



副所長兼地域保健福祉部長

伊澤 正行

技術副所長兼環境衛生部長

宮城県環境生活部循環型社会推進課から技術副所長兼環境衛生部長として赴任してまいりました平野と申します。

私は約 20 年前、塩釜保健所と仙台福祉事務所が統合される以前の塩釜保健所に、食品薬事課食品第二係長として勤務しておりましたので、すこし当時のことを振り返ってみたいと思います。

当時の食品衛生担当部門は食品衛生第一係と食品衛生第二係に分かれており、食品衛生第二係は市場検査所の機能を担っておりました。

塩竈市には、日本有数の生マグロの水揚げを誇る「塩竈市魚市場」及び東北最大級の卸売市場「塩釜水産仲卸市場」があることから、食品衛生第二係はそれらの市場で販売される水産物や水産食品、そして地元で生産される水産加工品等の安全を司る業務を遂行しておりました。

具体的な業務の一例として早朝市場監視業務があり、午前 6 時頃からの仲卸市場の巡回と魚市場のマグロの競り監視、午前 3 時頃に行われる近海マグロの水揚げや近海魚の競り監視を、それぞれ適宜実施していました。

平成 11 年、県の機構改革により食品薬事課食品衛生第一係と食品衛生第二係は、食品薬事班へ統合し、検査部門は宮城県保健環境センターに集約され、現在に至っております。

令和元年を迎えた当環境衛生部では、食品衛生業務のほか、薬局の監視・指導や麻薬等を取り締まる薬事衛生部門、旅館や理美容所の衛生指導を行う環境衛生部門、リサイクルの推進や廃棄物の適正処理の推進を図る廃棄物部門、工場・事業場の公害防止に関する指導を行う公害部門など県民の生活に密着した業務を行っております。

環境衛生部長として、これからも地域の皆様に寄り添い、生活の安全安心に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



技術副所長兼環境衛生部長

平野 浩

本年度もよろしくお願ひします



幹部職員(班長以上)

宮城県仙台保健福祉事務所(塩釜保健所)体制と業務

班名		主な業務	配置
企画総務班		医療従事者の免許, 医療機関各種申請等, 社会福祉法人許認可等, 庶務一般	
地域保健福祉部	高齢者支援班	介護保険, 高齢福祉対策等	2階東側
	母子・障害第一班	認可外保育施設, 母子父子寡婦福祉資金貸付, 不妊に悩む方への特定治療支援事業	
	母子・障害第二班	精神保健福祉相談, 特別障害者手当, 障害者自立等支援事業, 子どもの発達相談等	
	健康づくり支援班	健康づくり・食育, 栄養士・調理師免許申請, 特定給食施設, 地域リハビリテーション等	
	疾病対策班	難病, 肝炎, 感染症, 結核等	
	生活支援班	生活保護, 生活困窮者自立支援等	1階
環境衛生部	食品薬事班	食品, ペット・動物取扱業, 医薬品・劇毒物, 温泉, 薬剤師・製菓衛生師等免許, 旅館・公衆浴場・理美容所・クリーニング等	2階西側
	環境廃棄物班	環境公害, リサイクル, 廃棄物等	

仙保福

トピックス

塩釜地域災害医療連絡会議（訓練）



塩釜地域災害医療連絡会議

地域災害医療支部 仙台支部

医療救護班の派遣調整を議論

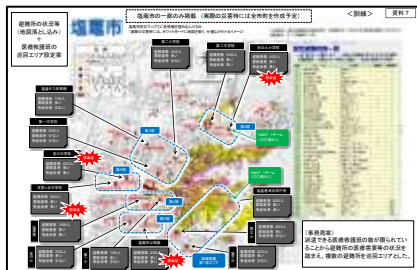
災害拠点病院「坂総合病院」で関係機関を集めて開催



地域災害医療コーディネーター
坂総合病院救急診療部長
郷古 親夫 先生



意見交換の様子



会議資料の一部
(後日ホームページ公開予定)

災害時、発災直後から被災地に入り、現地で医療救護活動を行う DMAT。最近では、西日本豪雨や熊本地震などでの活躍が記憶に新しいところです。

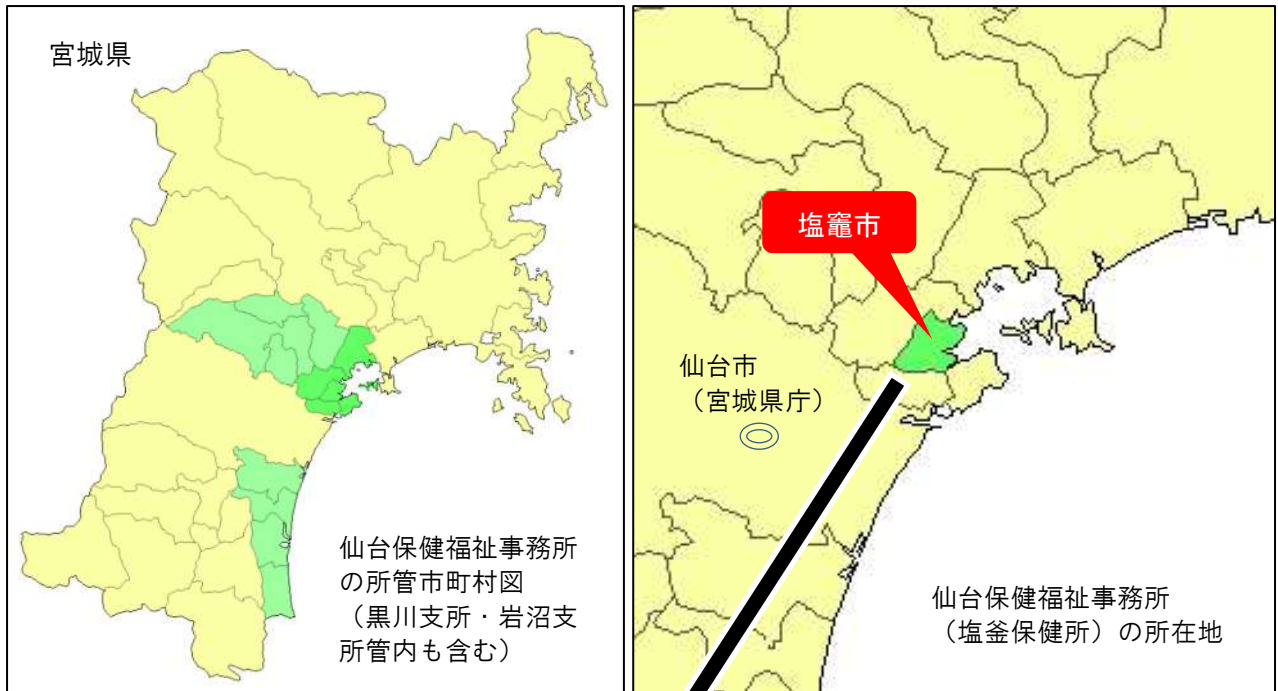
しかし、DMAT の活動は発災から3～4日間のみ。それ以降は、全国各地の医療機関等から派遣される「医療救護班」がその役割を引き継ぎ、避難所等での医療救護活動に当たります。

その医療救護班の派遣調整を行う場が、地域の病院、市町村、保健所で構成される「地域災害医療連絡会議」です。これは、熊本地震の発生後に、医療救護班を適材適所に効率的に派遣できなかった教訓から、地域の関係各機関が一堂に会し、協議する場の必要性が再認識され、設置されたものです。(次のページ図1参照)

4月25日、塩釜地域の災害拠点病院である坂総合病院において、「地域災害医療連絡会議」を開催し、大規模災害時を想定した医療救護班の派遣に関する訓練を実施しました。また、訓練後の意見交換では、医師会や各病院の先生方、スタッフの方々から具体的な提案や要望が挙げられました。

今後想定される大規模災害に備え、東日本大震災の被災地としての経験を活かした対応ができるよう、引き続き地域の関係各機関との連携を強めていきます。

宮城県仙台保健福祉事務所(塩釜保健所)の案内図



【発行・問合せ先】宮城県仙台保健福祉事務所HP委員会（事務局：企画総務班）

TEL：022-363-5502 FAX：022-362-6161 E-mail：sdhwfzpg@pref.miyagi.lg.jp